

ガイダンス と カウンセリング

子どもが人間関係づくりの手本とするのは教師です。教師は子どもの鑑です。

教師の指導・支援は子どもの姿に表れます。子どもは教師の鏡です。

子どもは、教師の集団や個への対応の仕方をよく見えています。そして、教師の接し方、語り方、支え方を真似します。学びます。それは、学ばせるチャンスとも言えます。

子どもの人間関係の形成には、下記のように、教師が集団への「ガイダンス」と個への「カウンセリング」で指導・支援することが求められています。

◇学習指導要領【小学校・中学校】第1章 総則 第4の1の(1)より抜粋

学校生活への適応や人間関係の形成などについては、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により、児童生徒の発達を支援すること。

集団へのガイダンス

教師は、学校や学級で守らなければならないルールや約束事などは毅然とした態度で伝え、指導します。また、学級が目指す姿や望ましい人間関係の在り方などは、具体的な場面（行動や発言など）を用いて伝えます。

個へのカウンセリング

教師は、困っている子どもや不安を抱えている子どもに徹底的に寄り添って援助します。個別に支援の必要な子どもへの教師のかかわり方は、他の子どもが見ています。困っている子どもへの望ましいかかわり方を教師が姿勢で示します。

◇学習指導要領【小学校】第6章 【中学校】第5章 第3の2の(3)より抜粋

学校生活への適応や人間関係の形成などについては、(略) 特に入学当初や各学年のはじめにおいては、個々の児童生徒が学校生活に適応するとともに、希望や目標をもって生活できるよう工夫すること。あわせて、児童生徒の家庭との連携を密にすること。

新年度がスタートします。子どもの考えや思いを受け止め、集団に対しては、目標に向かって取り組んでいくための希望と勇気を与えるガイダンスを行い、個々の子どもに対しては、丁寧な見取りから心配ごとを解決したり、不安を払拭したりするなどのカウンセリングを行うことが大切です。

ガイダンスと
カウンセリング
が大事です!

